

西之内町地車新調 実行委員会通信

2021年
5月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
072・444・7712

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介

風薫る五月となりましたが、西之内町の皆様には天候同様ご清祥なる日々をお送りのこととお喜び申し上げます。

さて今月は、新調地車の彫り物の場面について少しご紹介します。

西之内町地車新調実行委員会ホームページ掲載の第2回新調委員会報告会で腰周り、見送りの場面は難波戦記で統一と報告しております。難波戦記に記されている二条城での出来事を、だんじり彫刻の一面に採用しております。戦記物語ではございますが、調べてみると色々な逸話や誇張した伝説などがあります。その中でもだんじり彫刻としては、あまり類を見ない場面を、山本師と相談しだんじり彫刻の図柄としております。

ではまず、二条城について簡潔にご説明します。二条城は1603年(慶長8年)、江戸幕府初代将軍徳川家康が、天皇の住む京都御所の守護と将軍上洛の際の宿泊所と



二の丸御殿 [国宝]

の時代、後水尾天皇の行幸のために城内は大規模な改修が行われ、二の丸御殿にも狩野探幽の障壁画などが数多く加えられました。壮麗な城に天皇を迎えることで、江戸幕府の支配が安定したものであることを世に知らしめたものです。

1867年(慶応3年)には15代将軍慶喜が二の丸御殿の大広間で「大政奉還」の意思を表明したことは日本史上あまりにも有名です。

二の丸御殿、二の丸庭園、唐門など、約

するため築城したものです。将軍不在時の二条城は、江戸から派遣された武士、二条在番によって守られて

いました。3代将軍家光

400年の時を経た今も絢爛たる桃山文化の遺構を見ることができます。1994年(平成6年)、ユネスコ世界遺産に登録された二条城は、徳川家の栄枯盛衰と日本の長い歴史を見つめてきた貴重な歴史遺産と言えます。

大坂の役の前、その二条城で落首がありその場面を取り入れています。落首とは、公共の場所、特に人の集まりやすい辻や河原などに立て札を立て、主に世相を風刺した狂歌を匿名で公開したものです。封建制度においては言論の自由というものは存在しなかったので、政治や君主に対する批判は極めて危険性の高い行為だったのです。匿名での公開によって、読み書きができる者なら誰でも自由に言論活動を展開することができました。いわゆる落書きというものです。

二条城での落書き。誰に對してしたものかは、調べていただければお判りになるかと思

ますが、その場面を山本師は、ユーモアを交えて表現していただいております。

合戦前に世論を気にするところなどは、現在の為政者の選挙前と様子は変わらないところであります。今回の新調地車に関しても、注目度や評判が上れば、携わっている新調委員が、さらに気を引き締めることでしょう。是非皆様のご注目をいただき、後世に自慢できる地車ができればと思います。



二条城 唐門 [国宝]

新調地車の彫り物 進捗報告

5月現在、見送り下の彫り物に関しては、刻みという仕上げの段階に入っております。左写真①は、刻み前の作品でございます。先月号の作品紹介のようにこれから細かい馬のたてがみ、武者の鎧、鎧などの表現に取掛ります。この彫り物が何の場面か、お判りになる方はおられると思いますが、ここでは伏せたいと思います。

次に写真②をご覧ください。これは、馬の後ろ足部分ですが、尻尾の流れる感じや



写真①

血管などの表現も入り、彫刻の中で『動』を表現しております。地車彫刻では、合戦が多く迫力のある場面をどのように表現するかは、彫刻師の技量によるところですが、一見しただけではわからないところにも様々な表現がなされています。



写真②

写真③は、馬上の武者の持っている武器です。戦国物の書物でも、武者の豪傑ぶりを表現する武器に、槍や刀、弓などが出てきますが、その一つにこん棒があります。余談となりますが、このこん棒とはどのような武器なのでしょう。簡潔に説明すると、こん棒は固い木の上に鉄を貼り付け、錘を打ってある武器です。重さは長さや太さにもよりますが3kg以上とあります。合

戦時の使いかたとしては、甲冑の上から打撃を与えることで相手の骨を砕く武器であるということでした。いずれにしてもやられた際には、痛い事は想像できます。そのこん棒を持つ武者の手の表現も細部にわたり仕上げております。

その他、彫り物の進捗としては、腰周りの縁葛、大連子、小連子の荒彫りが順調に進んでおります。刻みの工程前ではございますが、順次報告できる部分を紹介致します。

さらに、5月からは土呂幕部分に入ります。土呂幕の彫刻はどの町も力を入れる部分で、難波戦記の中でも、どの武者の場面を採用するかをいろいろと検討を重ねてきました。



写真③

背景などにも創意工夫を凝らしておりますので、ご期待ください。



土呂幕下絵作業の山本師

新調委員の独り言

大阪も3回目の緊急事態宣言の発令の中、毎年行っております西之内町子ども祭りも中止となっております。小学校や中学校でも行事の中止や延期、規模の縮小と主催者側の苦労も相当なものと思います。

今一度、個々のできる手洗い、うがい、マスク着用の基本を徹底し疫病退散に近づければと願っております。

